

「鹿児島マラソン」デジェンさん優勝インタビュー

Q. 鹿児島マラソン優勝おめでとうございます。優勝から2週間経ちましたが今どんな気持ちですか？

A. ありがとうございます。鹿児島マラソン優勝の後はすぐに気持ちを切り替えて、今は今後行われる熊本と延岡の大会に向けて練習を開始しています。今回は両方とも5000mに出場します。

Q. 鹿児島マラソンではいいレースができましたか？レース展開について教えてください。

A. 県下一周駅伝とハーフマラソンの練習だけしかしておらず、鹿児島マラソンのフルマラソンへ向けての練習はしていませんでしたので、自分が優勝するとは思っていませんでした。27km、28kmまでは皆一緒に走っていて、そこから出ようと思いました。でも、どんな動きになるか分かりませんでした。マラソンは残り5km、4kmが勝負なのでそこを考えていかないと最後がだめになってしまうと思いました。32kmから前に出て、そこから少し離れて、後ろを見たら全然ついてきてなかったの、そこで優勝できる！と思いました。

36km、37km、38kmのところでは何も考えてなかったのですが、38kmからタイムを見て、大会記録のペースで走っていたので、ここからがんばって新記録を作ろうと思って走りました。ゴールした時は、嬉しい気持ちもありましたが、タイムを見たら新記録を作れなかったの、悔しい気持ちもありました。

Q. 優勝した後周りの人たちからどのような反応がありましたか。

A. 地元の人たちから優勝についてよく言われるようになりました。特に仕事で現場に出るときに周りの人たちが「おめでとうございます！」と声をかけてくれます。会社の人もすごく喜んでくれました。母国の母もとても喜んでいました。

Q. もしあなたの日本の父である宮澤保夫・星槎グループ名誉会長がこの場にいたら、きっと褒めてくれるでしょうし、誰よりも喜んでくれると思います。是非、この場を借りてこの優勝報告を名誉会長へしてください。

A. いつも会長の言葉、言われたことを忘れずに心に留めています。優勝した後、ずっと会長のことを思い出しています。「絶対に歴史を作れ！作れ！作れ！」と言われていました。会長が生きていたら良かった。私のことを喜んでくれるだろうと思いました。今回の勝利を会長に捧げます。いつも会長の事を思い出しています。歴史を作るにはまだまだですが、将来は母国エリトリアの代表に選ばれるような選手になって、良い結果に繋げていきたいです。

Q. 鹿児島での生活についておしえてください。

A. 鹿児島は自然が多くとても練習環境がいいです。とても走りやすい環境です。食べ物もとても美味しいです。会社から自宅までは30秒です。普段は徒歩や自転車で移動していますが、

鹿児島市内に行く時はバスを使っています。野菜やお米の無人販売やスーパーも近くにありますが、野菜やお米は会社の人が育てたものをたくさん分けてくれるので買う必要がありません。鹿児島には方言がありますが、「きばれ（がんばれ）」や「なんしょっと（何してますか）」などの方言を覚えました。

Q. 鹿児島での一日のスケジュールを教えてください。

A. 平日は会社で、8時から17時まで仕事をして、そこから日によって2時間から3時間ほど練習します。練習が終わって帰宅後は夕食を食べて10時前には寝るという生活です。土曜日にも月に1日から2日は仕事をしています。練習は所属している会社の実業団の8名の仲間達と共にポイントやジョギングをしており、外部の監督から週2回程指導を受けています。日曜日は仕事は休みで、練習をしています。祝日で仕事がない日などは、時々鹿児島市内にいる陸上仲間のもとへ行き一緒に練習もします。完全オフというのではなく、練習中心の日々を送っています。去年は、地元の小学校で持久走について教える交流会にも参加しました。子供達はとても可愛かったです。日々充実した生活を送っています。

Q. 高校1年生の時に来日して以来、星槎国際湘南で学び、星槎大学を昨年9月に卒業して、今は星槎から離れて新しい生活を送っていますが、星槎でいつも応援している皆さんにメッセージをお願いします。

A. 日本に来てから6年半、星槎でたくさんしてくれたこと全部、感謝の気持ちを忘れていません。特に宮澤会長のおかげで日本に来ることができて、そこから大きな機会を与えてくれたからこそ、日本でいい生活を送ることができて本当にありがたいと思っています。いつも応援ありがとうございます。これからももっと頑張ります。



インタビュアー：世界こども財団

井上美智代

ケセテ・ハブテシオン